

# 大阪ブルー・オーシャン・ビジョン 実行計画

概要版

令和8年3月（令和3年3月策定）

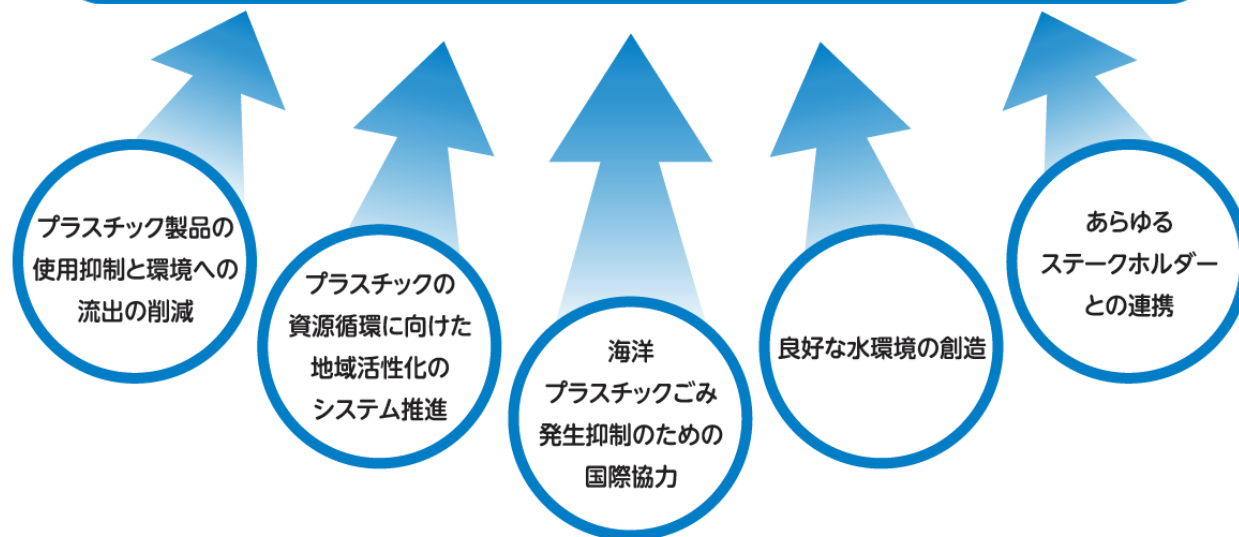
大阪府・大阪市

## めざすもの

- ①海洋プラスチックごみの新たな汚染ゼロの実現に寄与
- ②大阪市環境基本計画の水分野の個別計画としてSDGsの達成に貢献

## 計画の目標

- ① 2030年度に大阪湾に流入するプラスチックごみの量を半減する。
- ② 河川・海域の水質に係る国の環境基準を100%達成、維持するとともに、水環境に関する市民満足度を向上する。



## 背景

### ○海洋プラスチックごみ

・2019年6月に開催されたG20大阪サミットで「2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにする」ことをめざす「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」がG20首脳宣言において共有されました。  
・2025年の大阪・関西万博に向け、大阪府・市はG20に先立ち、2019年1月に「プラスチックごみゼロ宣言」を共同で行いました。

### ○大阪市の水環境

・2019年12月に策定された「SGDs達成に貢献する環境先進都市」の実現をめざす「大阪市環境基本計画」の水分野の個別計画として施策を展開していきます。

### ○国際的な動き

・プラスチック汚染対策に関する国際文書（条約）の策定に向けた政府間交渉委員会において、2024年末に作業完了をめざして交渉が行われてきましたが、2025年8月の会合においても合意に至らず、今後、再開会合を開催し交渉を継続することとなっています。

## 見直し内容

このような背景を踏まえ、2025年度の見直しは、目標やその達成に向けた5本の柱については維持するとともに、計画策定時において新型コロナウイルス感染症拡大の影響により指標値の設定が困難であった項目や、2024年度末に指標値を達成した項目の新たな指標値等の設定を更新します。

### ○指標値の変更

- ・未設定となっている指標値の設定  
柱4：河川クルーズ船やイベントなどの利用者数
- ・2024年度に達成した指標値等の変更  
柱3：海外への情報発信や事業展開の機会を創出した件数  
柱5：海洋プラスチックごみの削減等に関わるステークホルダー間の連携を創出した件数

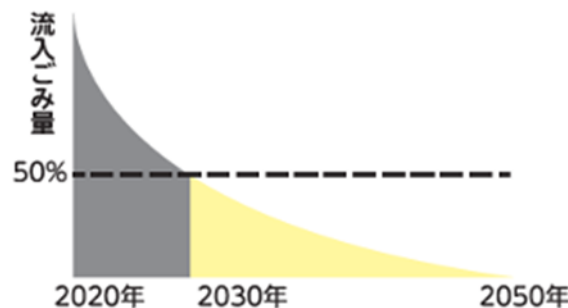
### ○計画策定後に新たに実施した取組みの追加

- ・大阪・関西万博の会場での取組みや万博開催に合わせて実施した事業について
- ・プラスチック資源の一括収集の取組み など

## 目標設定

### ○ごみ量削減について

大阪湾の漂流ごみの8割以上を占めるプラスチックごみの削減をめざすためには、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」における「2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染ゼロ」に整合した目標をわかりやすく設定することが有効と考えられます。大阪湾に流入するプラスチックごみの量を、現状を100として、2050年度のゼロからバックキャストして設定します。プラスチックごみの量が線形で減少していくと仮定すると2030年度は3割減になるが、一般的にゼロに近づくほど削減スピードが落ちていくと推定されることから、5割減と設定します。



■ 流入ごみ量削減のイメージ

### ○水環境に関する市民満足度について

本計画の水環境とは、河川や海、その水辺だけでなく、干潟や海沿いの緑地などの様々な空間と、そこに生息する生き物、水辺を楽しむための遊歩道や施設、水辺空間で実施されるイベントなどを含みます。市民満足度に関する評価は、5つの指標を設定し、その全ての指標が達成もしくは増加傾向であった場合、市民満足度が向上したものと評価します。

No.	柱	指標	指標値 (2030年度)	現状値
1	4	きれいな水質の指標となる魚種の市内河川での確認地点数	全21地点	9地点 (2022年度)
2	4	水辺施設を知っている市民の割合	80%以上	-
3	4	イベントや河川クルーズなどを通して水辺空間を楽しむ人の数	140万人を維持	140万人 (2024年度)
4	4	海洋プラスチックごみの削減等に関わるステークホルダー間の連携を創出した件数	50件	35件 (2024年度)
5	-	各種イベント時等における水環境に関する意識調査結果の割合	40%	17.3% (2024年度)

■ 水環境に関する市民満足度の指標及び現状値

## 目標年度

目標年度はSDGsのゴールを踏まえ2030年度とします。

# 目標達成に向けた取組み〈5つの柱〉

## 柱1 プラスチック製品の使用抑制と環境への流出の削減

SDGsのゴール

の達成に寄与

○方向性

- ・新たなプラスチックごみを発生させない生活スタイルへの変革
- ・海洋プラスチックごみの削減に向けた対策・調査研究
- ・まち美化の推進
- ・環境教育・啓発の推進

取組み例

- エコバッグやマイボトルの利用の促進

プラスチックの使用削減やリユースやリサイクルの推進、マイボトルの利用啓発や給水スポットの普及に取り組みます。

マイボトル利用啓発イベントの様子

「水色スイッチ」

- プラスチックごみの実態把握

より詳しい実態が把握できるよう、海域及び陸域において、プラスチックごみやマイクロプラスチック等の調査を実施します。

マイクロプラスチック調査の様子

○その他の取組み

- ・プラスチック資源の一括収集
- ・河川・海面清掃の実施
- ・住民が参加しやすい清掃活動の実施 など

## 柱2 プラスチックの資源循環に向けた地域活性化のシステム推進

SDGsのゴール

の達成に寄与

○方向性

- ・プラスチック（ペットボトル）の資源循環の促進
- ・「みんなでつなげるペットボトル循環プロジェクト」を通じた地域活動の活性化の推進

みんなでつなげるペットボトル循環プロジェクト

現在、資源ごみとして回収している家庭から排出されるペットボトルを、本取組みを実施していただく地域コミュニティ（地域活動協議会等）と参画事業者が連携協働して回収するものです。この取組みでは、分別に対する意識をより高めていくことで、さらなるごみの減量・リサイクルを推進します。また、コミュニティビジネスの要素を取り入れることで、自律的な地域運営へ寄与し、活力ある地域社会づくりに貢献します。さらに、分別の徹底により、質の高いペットボトルを回収することで、国内におけるボトルからボトルを作るといったマテリアルリサイクルを促進し、プラスチックの資源循環を推進します。

取組み例

- UNEP-IETCと連携した国際会議等での取組みの発信

大阪府・市や企業等における先進的な取組みを発信するとともにレジ袋削減に向けた啓発活動やエコバッグの普及、マイボトルの利用啓発や給水スポットの普及に取り組みます。

「国連環境計画プラスチック汚染軽減フォーラム」

- 都市間協力の推進

企業の持つ先進的な技術等を活用しながら、アジア諸都市等におけるプラスチックごみ問題などの環境問題の解決に向けた取組みを支援します。

タイ国東部経済回廊（EEC）との政策対話

○その他の取組み

- ・海洋プラスチックごみの削減等大阪の先進的な取組みを発信するデジタルツールの制作
- ・Team OSAKAネットワークによる海外展開 など

## 柱3 海洋プラスチックごみ発生抑制のための国際協力

SDGsのゴール

の達成に寄与

○方向性

- ・行政、企業、各種住民団体（NPO・NGOを含む）による先進的取組みの海外への展開

取組み例

- UNEP-IETCと連携した国際会議等での取組みの発信

大阪府・市や企業等における先進的な取組みを発信するとともにレジ袋削減に向けた啓発活動やエコバッグの普及、マイボトルの利用啓発や給水スポットの普及に取り組みます。

「国連環境計画プラスチック汚染軽減フォーラム」

- 都市間協力の推進

企業の持つ先進的な技術等を活用しながら、アジア諸都市等におけるプラスチックごみ問題などの環境問題の解決に向けた取組みを支援します。

タイ国東部経済回廊（EEC）との政策対話

○その他の取組み

- ・海洋プラスチックごみの削減等大阪の先進的な取組みを発信するデジタルツールの制作
- ・Team OSAKAネットワークによる海外展開 など

## 柱4 良好な水環境の創造

SDGsのゴール

の達成に寄与

○方向性

- ・水質の保全と生物多様性を守るための水環境の創造
- ・水資源の有効利用と快適な水辺空間の保全・創造
- ・水辺空間の利活用とにぎわいの創出

取組み例

- 河川に生息する魚類調査

大阪市内河川に生息する魚類を調査することにより、大阪市の水環境についてよりわかりやすく発信します。

投網による採集の様子（木津川）

- 水環境イベントによる水環境やプラスチックごみ問題の啓発

大阪市内河川のきれいな水や水生生物の豊かな水環境に関する情報を発信するとともに、河川敷の清掃活動を実施することにより、プラスチックごみの発生抑制に寄与しながら、ごみを積極的に拾うなどの習慣を広げます。

バックキャストによる水質調査の様子

柴島干渉でのごみ拾いの様子

○その他の取組み

- ・水質保全に向けた各種協議会との広域連携
- ・生物多様性に関する情報発信
- ・公共施設の窓口等での啓発 など

## 柱5 あらゆるステークホルダーとの連携

SDGsのゴール

の達成に寄与

○方向性

- ・あらゆるステークホルダーとのパートナーシップの構築
- ・広域連携、国際協力・協調

取組み例

- あらゆるステークホルダーとの連携の構築

本計画の推進に向けて海洋プラスチックごみ削減や良好な水環境の創造などに関わるステークホルダーとの連携を拡充します。

「UNEP-IETCがなわこ会議主催のセミナーにおいて講義を実施」

UNEP-IETCによる講義の様子

参加者全員で海岸でのごみ拾いの様子

「大阪市旭区にある淀川の城北バンドにおいて、大阪工業大学とNPO法人海未来との水中及び陸上の清掃や外来魚駆除活動の実施」

水中清掃活動の様子

採取された魚の仕分けの様子

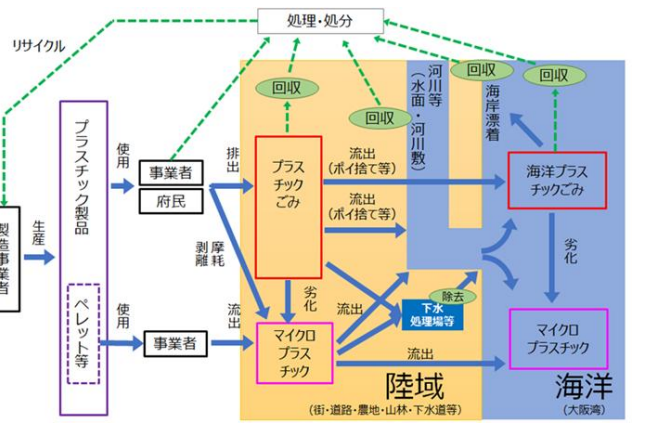
○その他の取組み

- ・環境貢献者への表彰
- ・大阪湾や河川の協議会などを通じた自治体連携
- ・官民連携による海外展開 など

## ■現状分析と課題

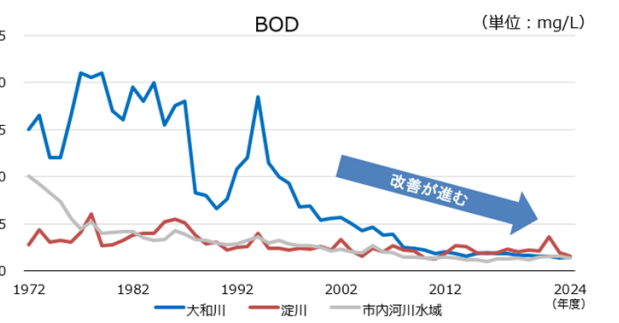
### ○大阪湾における海洋プラスチックごみについて

国内で発生する海洋プラスチックごみをはじめとする海岸漂着物、山、川、海へとつながる水の流れを通じて流下、漂着したものであり、流域圏の内陸地域と沿岸地域が一体となった広域的な取組みが必要です。環境省の調査では、大阪湾における海洋ごみの約7割は陸域からの流入であり、そのうち約8割がプラスチック類でした。



### ○大阪市の水環境について

大阪市における河川・海域の水質に係る国の環境基準の達成率は、2024年度では97.7%と概ね改善された水質を維持しています。また、水のきれいさ、水辺の生き物の豊かさ、水辺空間の親しみやすさ及び水辺の施設の賑わいの楽しさの水環境に関する市民満足度については、17.3%にとどまっています。このようなことから、水環境に係る今後の課題として、水辺空間を含めた水環境のさらなる改善を進め、市民満足度の向上や生物多様性の保全などを進めていくことが重要になります。



## ■計画の推進・進行管理

本計画については、大阪府が広域的観点から、官民連携によるプラスチックごみを含む海岸漂着物等の回収、発生抑制対策やマイクロプラスチックなどに関する情報発信に取り組み、大阪市が住民に身近な観点から、プラスチック製品の使用抑制やプラスチックの資源循環に向けた地域活性化のシステム推進、海洋プラスチックごみ発生抑制のための国際協力などのプラスチックごみ対策、水質の保全、快適な水辺空間の保全と創造を推進していくこととしています。また、SDGsの考え方では、環境、経済、社会の三側面において、統合された形で課題を解決していくとしており、環境面から対策を講ずることにより、経済・社会の課題解決に貢献することや、経済面・社会面から対策を講ずることにより、環境の課題解決にも貢献することが重要となります。本計画の推進については、ごみ減量やまち美化、ペットボトル回収、国際連携、水環境保全、賑わいの創出などに取り組んでいる各種団体や、研究機関、水都大阪コンソーシアムなどと連携・協力し、大阪府・市の環境部局がハブとなって各団体等の取組状況を把握し、関連する団体等の活動につなげていくとともに、国や関係自治体とも連携することにより、本計画の推進、目標の達成を図ります。本計画の目標を達成するために設定した指標に基づき、PDCAサイクルにより取組みの進捗状況について毎年検証を行い、その結果は目標の達成状況とあわせてホームページ等により公表していきます。



海洋プラスチックごみを減らすためには、マイバッグやマイボトルなどを使い、使い捨てのプラスチックを減らしていくことが大切です。そして、海洋プラスチックごみ問題の解決に向けては、世代問わず行動を起こすことが重要です。一人ひとりの小さな心がけが、海洋プラスチックごみを減らす大きな力になります。美しい海を守るためにできることからひとつずつ始めましょう。

### 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画

令和8年3月（令和3年3月策定）  
問合せ先  
大阪府環境農林水産部脱炭素・エネルギー政策課  
〒559-8555  
大阪府住之江区南港北1-14-16  
大阪府吹洲庁舎（さきま317号）22階  
電話06-6210-9549 FAX06-6210-9259

大阪府環境局環境管理課環境管理課  
〒559-0034  
大阪府住之江区南港北2-1-10  
ATCビルO's（オス）棟南館5階  
電話06-6615-7984 FAX06-6615-7949